

# 宮城県石巻市立大原小学校 図書館整理支援 報告

2012.02.12

東京学芸大学附属小金井小学校 司書 中山 美由紀

石巻を中心に活動するプロジェクト「結」及びsaveMLAKを通じて学校の依頼を受け、教育政策研究所教育研究情報センター長・神代浩氏の計らいで、有志募集。

saveMLAKの宮城県内図書館に対する直接支援の基本方針（宮城共同歩調宣言）により <http://p.tl/NMj3> 宮城県立図書館へ申請。学校との連絡・調整、準備はプロジェクト「結」。

【依頼】 落下本と寄贈本の整理および館内環境の整備（大原小学校自体は被災を免れたがしばらく避難所となった。児童全員無事。44名だった児童が今は22名。被災した谷川（やがわ）小学校が同居中、次年度統合が決まっている。図書室は12畳ほど。）

【日時】 2012年1月4日12時～18時半／1月5日8時半～15時45分

【メンバー】 (50音順、ボランティア保険加入、取りまとめは中山)

有山 裕美子 (私立工学院大学附属中学・高等学校 司書 )

太田和 順子 (千葉県市川市立新浜小学校 司書 日本子どもの本研究会)

高桑 弥須子 (千葉県市川市立富美浜小学校 司書 日本子どもの本研究会)

中村 百合子 (立教大学 准教授)

中山 美由紀 (東京学芸大学附属小金井小学校 司書 専修大学他非常勤講師 saveMLAK 有志)

プロジェクト結 <http://project-yui.org/> の 中川綾さん他3名がサポート

【移動・宿泊】

石巻駅までは公共の乗り物を利用。（東京―仙台は新幹線、仙台―石巻はバス）石巻駅から、大原小まではプロジェクト「結」の車に同乗。宿泊は「結」の拠点である湊水産に1泊。

【図書の状況】 3000冊 落下本をひとまず棚に戻したまま未整理。300冊寄贈本も紛れている状況

【作業・活動予定】

1. 分類排架装備 2. 棚見出し 3. 台帳づくり（未登録だけか 全部か） 4. お話し会（5日）

【持参品】

NDC 2冊 バーコードリーダー2本 ブッカー2本 NDC類と絵本の棚見出し（A4版）

ネットにつながるPC1台 お話し会に使う予定の本は持参して寄贈

【学校で用意してもらったもの】

ネットに繋がるPC2台（台帳作成のため）、ラベル、マジック、文房具、板目紙、色画用紙

【実際の作業】

1. 寄贈本リスト作成 2. 既存の棚移動（絵本コーナーを確保） 3. 廃棄候補の決定と抜き出し 4. 分類 排架 5. 1,2年生お話し会（5日3校時）

全校児童が24名であり図書の消耗は激しくはないと判断し、ブッカーはかけないことにした。

【web まとめ紹介】

「石巻の小学校図書館支援 20120104」 <http://togetter.com/li/238728?f=tgtn>

小学校HP <http://www.mediaship.ne.jp/~elsohar/>（2012年1月5日お知らせ）

プロジェクト結 現地より愛をこめて <http://project-yui.org/blog/>（2012年1月5日10日20日）

石巻の学校図書館訪問 <http://d.hatena.ne.jp/to-yurikon/20120108>（↓日常：2012年2月）

「先生のための授業に役立つ学校図書館データベース」 <http://www.u-gakugei.ac.jp/~schoolib/htdocs/>

## 【活動内容】

- 2校の統合が決まっているので、台帳づくりは次年度へ持ち越し。寄贈本リストのみ作成。  
既に排架されているので、寄贈本らしいものを抜き、バーコードリーダーでISBNを次のサイトで読み込む。[http://www.yomupara.com/isbn\\_corrector.php](http://www.yomupara.com/isbn_corrector.php) これをエクセルの一覧表にした。
- 絵本をどこに置くか。入口正面に横長だった低書架の向きを90度変え、絵本コーナーを確保。  
普通の書架として使っていた雑誌架を端に置いて、内側は貴重本や古めの文学全集・民話全集、複本資料をいれる書庫とし、フタをして面だし用オススメ展示架とした。
- 棚に入っている本を大まかな分類ごとに分けつつ、壊れている、紙の変色が激しい、情報が古いものあたりを廃棄候補本として抜き出し、廊下に出す。約500冊
- 分類について（「先生のための授業に役立つ学校図書館データベース」にて資料を公開する予定）  
排架はなるべく連ごとにまとまるように、東側をマンガと0から7類。  
南窓下を8類と詩。西側を書庫兼展示架と9類文学（日本と海外に分ける）。  
北側入り口横に日本の絵本。  
入り口低書架に昔話絵本とお話集、海外の絵本。その裏側、カウンタ前は図鑑と事典。  
頼んだラベルが到着しなかったので、PJ「結」がわかりやすいとキハラの数字ラベルの提案。  
後からラベルが付けられるように、本に鉛筆で分類を手書き。
- お話し会（5日3時間目1・2年生 担当：高桑、有山）  
エプロンシアター：ねずみの嫁入り（話に「壁より強い」が出てきたが、ことなきをえた）  
おはなし：「十二支の話」（日本昔話）読み聞かせ：『まくらのせんじん』（かがくいひろし）  
おはなし：「せつつぶーん」（日本昔話）

## 【以後の作業】

ラベル張りができなかつたので、継続作業をPJ「結」に託す。作業がわかるように、分類・装備の仕様書をまとめる。今後の購入に際し、整理していて気付いたことをもとに推薦図書リストを作成して提供した。現在、大原小に同居する谷川小学校に今年度寄贈された図書はPJ「結」がリストを作成する予定。次年度の大原小・谷川小の統合にむけ、台帳の整理方法を考える。

## 【気づいたこと】

- 被災地に送られた本は、その後の受入れ、分類、装備、排架までするには、HELPが必要です。教職員数の少ない、規模の小さい学校ほどそうではないかと思いました。落下本をとりあえず棚に戻した状態なので、あわせて蔵書の整理もして棚をつくる作業をしてきました。学校図書館には専任・専門職員がいなくて多く、司書教諭や図書主任はクラス担任の他、公務分掌を多数兼務しています。そんな忙しい先生方に図書館づくりをアドバイスできる専門家が必要な場合が多いのではないのでしょうか。
- ボロボロの図鑑を廊下に出した時、これは子どもたちがよく読むからと先生が残念がられたので、買い換えてあげて下さいとお願いしたら、「なるほど」と言われました。本棚は連でまとまり、左から右、上から下と流れることもお伝えしたら、「そうだったのですか、これで本屋の謎が解けた。」と感心されました。「図書館」をつくり、使い方を伝える人が必要なのです。これは被災の復興支援というより、もともとの学校図書館そのものの復興支援ということになります。
- 今回、被災地支援ということで送られた本は、今年昨年欲しかった本もありましたが、ゲーム本や乳幼児向けなど、学校図書館に置くにはどうかと思うような本もかなりありました。また同じ本が複数入っていたり、既にある本とだぶっていたりして、棚の面積をとります。また、購入に関しての本の情報や配本の状況もありよくないことも感じました。もともと学校が選択できる本が限られているようなのです。担当の先生が短期間で交代されるという理由もあるかもしれません。
- 蔵書数として、文部科学省の示す図書標準に達していても、読書や学びのために子どもたちに必要な基本図書は、市や県の図書館の組織的な支援が必要であると感じました。いくつかのテーマで基本のセットを組み、地域を巡回する学校支援活動が小規模校の図書館支援になるのではないかと考えます。または、地域拠点校を設け、その学校に行けば一通りの蔵書が揃っていて近隣校をカバーするというようなシステムづくりなど、学校教育担当者と県立図書館、市立図書館で図っていただけたらと思いました。
- 寄贈された図書の受入れの方法、被災して消失した図書原簿の復旧の仕方、今後起こる学校の再編成による図書原簿の継承の仕方など、その自治体の管理のルールを、図書館の視点と学校教育の視点の双方から、各学校に再確認していく必要があります。